

会 務 月 報

第431号

発行 一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会

■平成30年11月通常理事会議事概要

1. 日 時 平成30年11月28日(水)

13:30~16:10

2. 場 所 日事連会議室

3. 理事総数及び出席理事数 総数32名、出席数28名

4. 出席者及び欠席者の氏名

出席者

会 長 佐々木宏幸

副 会 長 岩本茂美、新沼義雄、堂田重明、伊藤光洋、
児玉耕二、戸田和孝

専務理事 居谷献弥

常任理事 庄司雅美、白井 勇、西川英治、濱本泰久、
南 孝雄

理 事 秋野卓生、井上勝徳、大谷秀逸、小河節郎、
神田重信、栗田政明、栗原信幸、佐野吉彦、
鈴木勇人、田辺正義、富田 裕、舟幡 健、
宮原浩輔、八島英孝、渡邊 武

監 事 井島 均、木下賀之

事 務 局 前田敏明事務局長、鈴木雅之広報企画担当課長、
千浜民子業務課長、伊東眞理総務課長、
吉田茂調査役

欠席者

常任理事 植村吉延

理 事 金子敏夫、澤木英二、吉田 敏

5. 議 事

(1) 議長の選任

佐々木宏幸会長が議長に選任された。

(2) 議事録署名人の確認

定款第45条第2項の規定により、議事録署名人は以下の者であることが確認された。

佐々木宏幸会長、井島均監事、木下賀之監事

(3) 議決事項

1) 常任理事会専決事項の承認の件

①平成30年度日事連建築賞受賞者決定の件

日事連建築賞選考委員会での選考経過及び常任理事会で資料1のとおり受賞者を決定した旨、事務局より説明がなされた。

②青年話創会2018東京開催の実施要項決定の件

10月5日の青年話創会の目的、テーマ、会場及び参加者数等、実施要項を常任理事会で決定した旨、資料2によって事務局より説明がなされた。

③北海道胆振東部地震発生に伴う北海道会への義捐金贈呈承認の件

9月6日に発生した北海道胆振東部地震発生を受け、佐々木会長より常任理事会構成理事に対し、北海道会の活動を支援するために義捐金100万円を贈呈することが提案され、賛成多数により9月28日に北海道会へ予備費から支出した旨、資料3によって事務局より説明がなされた。

④第130回建築士事務所協会全国会長会議等のスケジュール及び議事等の決定の件

資料4のとおり12月6日13時から16時30分に、銀座東武ホテルにおいて、建築士事務所協会全国会長会議及び政経フォーラムを開催することを常任理事会で決定した旨、事務局より説明がなされた。

以上の常任理事会で決定した事項について議長より諮ったところ、異議なく、これを承認した。

2) 平成30年度上半期事業報告及び決算報告の承認の件

居谷専務理事及び各常置委員会委員長より、資料5-1によって平成30年度上半期事業報告について、会議報告、

事業概要、総務・財務、教育・情報、業務・技術、広報・渉外、指導運営、基本問題検討、景観・まちづくり、住宅金融支援機構適合証明業務、会員動静に関するそれぞれの事業報告の内容の説明がなされた。なお、この報告は一般社団・財団法人法第91条第2項、定款第26条第8項に規定する理事の職務の執行状況を兼ねるものである旨、事務局より説明がなされた。

宮原理事より、事業報告の「設計者」は「建築士」とするのが妥当ではないかとの意見が出され、修正することとした。

続いて、居谷専務理事より、資料5-2によって一般会計及び適合証明業務登録機関特別会計の平成30年度上半期決算報告について説明がなされ、井島監事より監査報告が行われた。

議長より、上半期事業報告及び決算報告の承認について諮ったところ、修正後の資料5-1及び資料5-2のとおり承認し、12月5日に開催する全国会長会議に報告することとした。

3) 福島大会開催に向けた全国大会運営特別委員会の設置の承認の件

事務局より、資料6によって次の趣旨の説明がなされた。

平成31年度の第43回建築士事務所全国大会（福島大会）の実施に向けた企画、立案等のために特別委員会を設置し、年明けより活動を開始したい。委員構成等は資料に記載のとおり。

議長より、全国大会実行特別委員会の設置について諮ったところ、異議なく、これを承認した。

4) 平成33年度（2021年度）第45回建築士事務所全国大会の主管会の承認の件

事務局より、資料7によって次の趣旨の説明がなされた。

かねてより平成33年度（2021年度）の第45回建築士事務所大会を熊本で開催したいと熊本会より要望されていたが、今般九州・沖縄ブロック協議会より、熊本会を主管会とするよう依頼文書が提出された。決定の暁にはブロックを挙

げて全国大会の実施に全面的に支援・協力するとのことである。

議長より、平成33年度（2021年度）第45回建築士事務所全国大会の主管会を熊本会とすることについて諮ったところ、異議なく、これを承認した。

5) 建築士事務所全国大会の開催ブロック順の承認の件

白井総務・財務委員長より、資料8によって次の趣旨の説明がなされた。

平成29年11月の理事会で、東京開催の全国大会は平成30年度を最後とし、平成31年度以降は毎年地方開催とすることとしたが、平成33年度（2021年度）以降の開催ブロックの順番は決めていなかった。ブロック・単位会としては、どのタイミングで全国大会実施（主管会）の打診を受けるのかが分からず、特に主管会を引き受けたことのない単位会にとっては、いつ順番が回ってくるかということは重大事である等の意見があった。そこで、総務・財務委員会及び常任理事会で協議した結果、過去の開催順及び決定済みの順番を基に平成42年度（2030年度）までの開催予定を資料のとおりとした。ただし、天災等でやむなく開催を辞退したブロックが生じた場合、改めて順番を検討したい。

議長より、建築士事務所全国大会の開催ブロック順について諮ったところ、異議なく、これを承認した。

6) 建賠保険加入者向け弁護士相談サービス（仮称）の承認の件

白井建賠保険等調査専門委員長より、資料9によって次の趣旨の説明がなされた。

建賠保険に加入している会員向けに、会員サービスの一環として年1回までの弁護士無料相談サービスを提供し、併せて保険加入及び単位会への入会促進に繋げたい。提供期間は、まずは平成31年4月から1年間とし、サービス提供にかかわる費用は建賠保険の保険料から捻出する。会員数の多い7単位会事務局にサービス提供について尋ねたところ、概ね好意的であった。

議長より、建賠保険加入者向け弁護士相談サービスの提供について諮ったところ、異議なく、これを承認した。

7) 平成31年度日事連建築賞の募集等の承認の件

南広報・渉外委員長より、資料10によって次の趣旨の説明がなされた。

平成31年度の募集要項については、例年の変更必須項目である対象建築作品の竣工年月日、応募期限、応募数算定日、表彰日及び全国大会名の他、事務的な変更並びに応募作品の質を高めること及び応募促進を目的に第2次審査候補作品応募数(日事連への応募数)の変更を行いたい。応募数は第1次審査の段階で各部門の一方に規定数を超えた複数応募があり、もう一方の部門に応募がない場合、複数応募がある部門に追加応募できるようにするものである。委員については、国交省からの1名を変更し、その他は留任である。

議長より、日事連建築賞の募集要項及び委員について諮ったところ、異議なく、これを承認した。

8) 4号特例建築物にかかる図書保存の承認の件

居谷専務理事より、資料11によって次の趣旨の説明がなされた。

昭和58年に4号特例が開始され、その見直しについて何度か話題になりながら現在に至っている。平成28年の熊本地震で、新耐震基準の倒壊率は旧耐震基準の倒壊率と比較して顕著に低く有効性が確認され、平成29年には新耐震木造検証法が公表された。小規模木造建築物等についても構造詳細図を保存することを検討すべきとの議論がなされているところである。国交省より建築三会对し保存を義務づける対象図書を4号建築物まで拡大することについて提案がなされ、業務・技術委員会で調査・検討したところ、会員についてはかなり保存されており差し支えないとのことであった。国交省は、三会と一定の合意に至った上で12月の中建審にかけたいとのこと。

西川常任理事より、この設計図書は竣工図かとの質問がなされ、居谷専務理事より設計図であるとの回答がなされた。

議長より、設計図書の保存義務を4号建築物まで拡大する

ことについて賛成してよいか諮ったところ、異議なく、これを承認した。

(4) 報告事項

1) 第42回建築士事務所全国大会(東京開催)の実施結果について

佐野全国大会実行特別委員長より、資料12によって次の趣旨の報告がなされた。

10月5日に開催した全国大会式典・パーティには、単位会から773名、国土交通大臣等招待者その他96名、合計869名が参加し、収支決算は概算で1,900万円余であった。今回初の試みとして、日事連建築賞の受賞者がパネル展示箇所で見学者の質問に直接応える等コミュニケーションを図る場を設けるとともに、受付近くに有償の企業展示ブースを設けた。午前には、別会場で青年話創会2018東京開催を実施し単位会から135名、オブザーバー17名が参加し、同世代が抱えている問題と解決策等について議論した。

2) 青年話創会2018東京開催の報告について

鈴木理事より、資料13によって次の趣旨の説明がなされた。

全国大会の一環として、講演・パネルディスカッションに先立ち、帝国ホテル近くのTKP新橋カンファレンスセンターにおいて「未来へつなげよう 青年の輪」をテーマに実施した。テーブルディスカッションⅠでは「同世代が抱えている問題と解決策について」及び「これからの活動と青年部会の必要性について」をテーマに議論し、ランチテーブルディスカッションⅡでは「ブロック活動で出来ることは？」をテーマに議論した。参加者アンケートでは、92%が「有意義だった」、75%が「また青年話創会に参加したい」と回答された。

3) 会員増強検討ワーキンググループの設置について

白井総務・財務委員長より、資料14によって次の趣旨の説明がなされた。

かつて会員増強検討WGは平成22年度に設置され、報告書を単位会へ提供し解散したが、今般改めて会員増強を推進

するために、総務・財務委員会で同WGの設置を決定した。
私がWGの主査となり、単位会及び日事連の実効性のある取
組み等まとめ、単位会活動の一助となる資料を作成する予定
である。また、佐々木会長の指示により、会員増強以外にも
単位会の組織運営等についても検討していきたい。

4) 既存住宅状況調査専門委員会の委員の追加について

事務局より、大阪会で既存住宅状況調査等を行う一般社
団法人を設立し、その理事として中心的役割を担っている
辻裕樹氏を委員として追加したとの報告がなされた。

5) 建築士受験資格の見直しについて

居谷専務理事より、資料16によって次の趣旨の説明がな
された。

三会で衆参の国土交通委員会委員等を中心に、受験時の
要件である実務経験を登録時の要件にするよう陳情してい
るが、法改正の趣旨については概ね賛同を得ている。ただし、
与野党間の駆け引き等で与党国対からは予断を許さないと
も言われている。今臨時国会で可決・成立すれば、再来年の
試験から適用される見込みである。対象実務の見直しにつ
いては、児玉副会長が参加している「建築士資格に係る実務経
験のあり方に関する検討会」で議論しているが、本会の要望
が概ね取り入れられている。

佐々木会長より、製図試験をCADで実施することは難し
そうなこと、大学生が受験できるようになると試験内容を変
えなければならないこと、教育現場の対応も課題であるとの
発言がなされた。

佐野理事の、実務経験の範囲の拡大は今回の建築士法改
正とは別の改正となるのかとの質問に対し、佐々木会長より、
施行規則の見直しで対応されとの回答がなされた。

6) 告示15号の改正状況について

居谷専務理事より、資料17によって報酬基準検討委員会
でのこれまでの検討の流れ、経費率・複合建築物の考え方、
業務量の比率、略算表、難易度係数及び標準業務に付随する
標準外業務の整理等について説明がなされた。

佐々木会長より、デリケートな問題を含んでいるので、普

及活動については方針を検討中であるとの発言がなされた。

八島理事より、従来は設計の規模が大きくなるにつれて設
計料は低減するものと認識していたが、新しい基準では、全
体の傾向として規模に比例して設計料が増えている。このよ
うなことも周知してほしいとの発言がなされた。

7) 既存住宅状況調査技術者講習の開催状況について

西川業務・技術委員長より、資料18によって平成30年
度の新規講習及び移行講習の実施状況並びに講習修了者数
について報告がなされた。

8) KYB(株)及びカヤバシステムマシナリー(株)が製造し

た免震・制振ダンパーを用いた建築物の調査における当面
の安全性検証の方法について

居谷専務理事より、資料19によってKYB(株)及びカヤ
バシステムマシナリー(株)の免震・制振オイルダンパーの
大臣認定等不適合事案の発生を受け、国交省より2社に対し
年内を目途に構造安全性の検証を指示され、本会に対しても
会員等に周知するよう協力依頼があった旨報告がなされた。

9) CM方式(ピュア型)の制度的枠組に関する検討会につい て

居谷専務理事より、資料20によって検討会設置の経緯・
趣旨、地方公共団体におけるCM方式の活用状況と課題、C
M方式導入事例による分析結果と主な論点、今後の方向性及
び検討会に建築設計三会から日本建築士会連合会が代表と
して参加している旨報告がなされた。

佐々木会長より、三会の定期的な意見交換の場を設ける予
定としているので、士会連を通じて意見等を伝えたいとの発
言がなされた。

富田理事より、さらなる法令改正等の見込み及びアットリ
スク型についての検討の可能性・スケジュールについて質問
がなされ、佐々木会長より、行政に対する発注者支援を念頭
に置いているためピュア型でいくようだが、確認するとの回
答がなされた。

佐野理事及び八島理事より、検討会に役員がオブザーバー
または委員として参加させてもらうべきとの意見が出された。

- 10) 社会資本整備審議会 建築環境部会一住宅・建築物の省エネルギー施策の現状と課題について
居谷専務理事及び宮原理事より、資料21によって建築環境部会での今後の住宅・建築物の省エネルギー対策のあり方等について報告がなされた。
- 11) 会員・構成員異動報告
事務局より、資料22によって平成30年7月から9月の各月の構成員及び賠償責任保険の加入数等の報告がなされた。
- 12) 建築士事務所企業年金基金の加入促進について
事務局より、同基金の特長、加入促進及び単位会・ブロックの会議等での積極的な周知について説明がなされた。

<配付資料>

- 資料1：平成30年度日事連建築賞の受賞者決定について
- 資料2：青年話創会2018東京開催実施要項
- 資料3：北海道胆振東部地震発生に伴う北海道会への義捐金贈呈について
- 資料4：第130回建築士事務所協会全国会長会議等のスケジュール及び議事等について
- 資料5-1：平成30年度上半期事業報告書
- 資料5-2：平成30年度上半期決算報告書
- 資料6：福島大会開催に向けた全国大会運営特別委員会の設置について
- 資料7：第45回建築士事務所全国大会の九州・沖縄ブロック協議会（熊本県）での開催について（依頼）
- 資料8：建築士事務所全国大会の開催ブロック順について
- 資料9：建賠保険加入者向け弁護士相談サービス（仮称）について
- 資料10：平成31年度日事連建築賞募集要項及び選考委員会委員について
- 資料11：4号建築物を巡る経緯等
- 資料12：第42回建築士事務所全国大会（東京開催）事業報告書
- 資料13：「青年話創会2018東京開催」実施結果
- 資料14：会員増強検討ワーキンググループの設置について
- 資料15：既存住宅状況調査専門委員会の委員の追加について

- 資料16：建築士法の一部を改正する法律案骨子（案）他
- 資料17：業務報酬基準（告示15号）の改正に係るこれまでの検討状況について
- 資料18：平成30年度既存住宅状況調査技術者講習受付状況他
- 資料19：KYB（株）及びカヤバシステムマシナリー（株）が製造した免震・制振ダンパーを用いた建築物の調査における当面の安全性検証の方法について
- 資料20：CM方式（ピュア型）の制度的枠組みに関する検討会議事次第他
- 資料21：社会資本整備審議会第16回建築環境部会資料他
- 資料22：会員・構成員異動報告等
- 資料23：「企業年金基金」の活用による生産性の向上に向けて

■第130回建築士事務所協会全国会長会議議事概要

- 日 時 平成30年12月5日（水）
12：45～14：30
- 場 所 銀座東武ホテル 3階 龍田
- 会議の構成者数及び出席者数
構成者数 単位会会長46名
出席者数 単位会会長45名
- 出席者の氏名
正会員
北海道会・庄司雅美 青森会・加藤 彰
岩手会・新沼義雄 宮城会・高橋清秋
秋田会・村田良太 山形会・藤原 薫
福島会・渡邊 武 茨城会・舟幡 健
栃木会・佐々木宏幸 群馬会・栗原信幸
埼玉会・栗田政明 千葉県会・金子康男
東京会・児玉耕二 神奈川県会・白井 勇
新潟会・坂本忠志 長野会・小河節郎
富山会・堂田重明 石川会・西川英治
福井会・木下賀之 静岡県会・井上 泉
愛知会・松岡由紀夫 三重会・相原清安
滋賀会・井島 均 京都市会・上野浩也

大 阪 会・戸田和孝 兵 庫 会・柏本 保
 奈 良 会・植村吉延 和歌山会・尾添信行
 鳥 取 会・霜村將博 島 根 会・矢野敏明
 岡 山 会・宮崎勝秀 広 島 会・衣笠准一
 山 口 会・伊藤光洋 徳 島 会・松村史朗
 香 川 会・中村賢治 愛 媛 会・濱本泰久
 高 知 会・西森敬祐 福 岡 会・岩本茂美
 佐 賀 会・平野直人 長 崎 会・三好定和
 熊 本 会・南 孝雄 大 分 会・仲摩和雄
 宮 崎 会・福澤幸雄 鹿 児 島 会・古川 稔
 沖 縄 会・野原 勉

日事連名誉会長 三栖邦博

日事連役員

専務理事 居谷献弥

理 事 井上勝徳、佐野吉彦、田辺正義、宮原浩輔、
 八島英孝、吉田 敏

事務局

前田敏明事務局長、鈴木雅之広報企画担当課長、
 千浜民子業務課長、伊東眞理総務課長

5. 欠席者の氏名

正会員 山梨会 藤田義治

6. 挨拶

佐々木宏幸会長より、以下の趣旨の挨拶があった。

- ・建築士資格制度の改善について設計三会による共同提案を行い、12月4日の衆議院本会議で可決された。今後参議院本会議で可決されれば、2020年の試験から実施される見込みである。10年間で6割に減ってしまった受験者数を何とか持ち直したい。
- ・告示第15号の改正は、建築士事務所の働き方改革の取り組みには不可欠である。現在はガイドラインの作成を行っており、今後は普及活動を行っていききたい。

7. 来賓挨拶

国土交通省小林靖大臣官房審議官より、以下の趣旨の挨拶があった。

・実務経験のあり方について現在有識者の会議において検討しており、今回の建築士法改正の施行に合わせ、資格の見直しを行いたい。

・業務報酬基準（告示第15号）の見直し等について検討を行っている。質の高い設計・工事監理業務が行われることが必要であり、今後も現場の実態等を踏まえた提案をいただきたい。

8. 議長・副議長の選任

司会者より、議長及び副議長の選任について諮ったところ、議長に岩本茂美福岡会会長が、副議長に新沼義雄岩手会会長が選任された。

9. 議事録署名人の選任

議長より、議事録署名人の選任について諮ったところ、議長に一任され、岩本茂美議長、佐々木宏幸栃木会会長及び堂田重明富山会会長を議事録署名人に選任した。

10. 報告事項

（1）平成30年度上半期事業報告及び決算報告について

居谷専務理事及び各常置委員会委員長より、資料1-1によって、平成30年度上半期事業報告について概要説明がなされた。続いて、居谷専務理事より、資料1-2によって、一般会計及び適合証明業務登録機関特別会計の平成30年度上半期決算報告について概要説明がなされた。

報告後、次のとおり質疑等がなされた。

高橋清秋宮城会会長

既存住宅状況調査技術者講習が行われているが、日経新聞によれば、インスペクションはあまり浸透しておらず、流通の中で活用されていないようだ。技術者になるために講習費用を負担してもらっているが、業務に繋がっていないのではないか。日事連として、今後の活用促進に向けてどう対応していくか。消費者保護に繋がるので、良い提案を期待したい。

居谷専務理事

国土交通省が既存住宅状況調査技術者に対し、既存住宅状況調査の実施状況等に関するアンケート調査を行い、集計を行っているところである。既存住宅調査技術者に対する今

後の扱いについては、長期的なスパンで見えていく必要がある。
一方、適合証明業務の件数は、昨年度11,000件と多い。
既存住宅状況調査技術者は単独で調査を行うのではなく、他の調査と兼ねた方が良いと思われる。専門調査委員会で今後の対策等について議論をしているところである。

霜村将博鳥取会会長

全国大会の予算決算について、あくまでも所属ブロックとしての意見ではなく、一単位会として質問したい。これまでの一単位会が主管会としてではなく、中四国ブロック全体で全国大会を運営していく場合、例えば「中四国ブロック全国大会（鳥取開催）」と表記して良いのか。また、今後も日事連より1,900万円を大会運営費として負担してもらえるのか。

また、30年度の予算では、会誌発行費が2,970万円（そのうち、印刷製本費2,320万円）となっている。事業活動収入の予算総額が2億7,961万円であることから収入の約10%強が会誌発行の経費となっている。これで本当に良いのか。例えば、会誌発行を年6回にするとか、郵送から電子メールで単位会へ配信するなど配布方法を変更すれば、発送費用の削減に繋がるほか、単位会が日事連へ支払う会誌購読料の負担額を減額出来る。その分を各ブロック協議会が全国大会経費として積立てすることも可能ではないか。例えば、減額した分の1,500万円を46単位会で割ると1単位会あたり約32万円、中四国ブロック9単位会で6年間積み立てれば、約1,740万円となる。この方法にした場合、各ブロック協議会の積立金を全国大会の経費に充てれば、日事連が大会運営費1,500万円を支出する必要がなくなるのではないか。また、会誌購読料収入の予算額1,390万円の考え方について説明をしてほしい。この場で全て回答をもらえないと思うが、これに対する検討結果を今後の全国会長会議で説明してもらいたい。

議長

今回の案件（質疑）は大変重要な案件であるため、改めて時間をかけて議論していきたい。

居谷専務理事

資料1-1の8ページ※2に会誌購読料収入の内訳が記載されている。

霜村将博鳥取会会長

内訳に記載されている直送料は収入となるのか。会誌を受け取った側が支出を負担していることになるのか。

居谷専務理事

直送している各単位会より実費相当分をもらい、配送会社へ支払をしている。

霜村将博鳥取会会長

会誌の発送料が減少すれば単位会も負担が減るということで、理解した。

居谷専務理事

地方開催の日事連負担金は、1,600万円と訂正させてほしい。

佐々木会長

会誌の発行回数については、現在検討中である。

（2）建築士資格制度の改善について

居谷専務理事より、資料2によって、次の趣旨の説明がなされた。

改正建築士法が4日の衆議院本会議で可決されたが、今後参議院本会議で可決・成立すれば、再来年の試験から適用される見込みである。実務経験の範囲については、「建築士資格に係る実務経験のあり方に関する検討会」で議論しているところである。

また、佐々木会長より、受験者数の急減は現行の実務経験の範囲も要因であるため、早急に対応していかなければならない旨の発言がなされた。

（3）業務報酬基準等の改正について

居谷専務理事より、資料3によって、業務報酬基準検討委員会でのこれまでの検討の流れ、経費率・複合建築物の考え方、業務量の比率、略算表、難易度係数及び標準業務に付随する標準外業務の整理等について説明がなされた。

報告後、次のとおり質疑等がなされた。

古川稔鹿児島会会長

掲載されているグラフでは、1,000㎡～2,000㎡の数値の落ち込みが激しい。多くの会員事務所は、この規模の設計に係わっているとみられる。現行の告示で試算した場合、設計料は1,570万円であるが、新告示になると1,150万円と約400万円下がる。最低制限価格がないところはかなりの低価格で落札している。アンケートの結果を示すだけで良いのか。佐々木会長

指摘のとおり、あるべき業務報酬ではない。その差については、アンケート集計の実際の数字のため、調整等はできない。この実態については、行政への働きかけが重要である。

(4) 平成33年度(2021年度)第45回建築士事務所全国大会の主管会について

白井総務・財務委員長より、次の趣旨の報告がなされた。

かねてより平成33年度の第45回全国大会は熊本で開催したいと熊本会より要望されていたが、先般九州・沖縄ブロック協議会より、熊本会を主管会とするよう本会宛に資料4のとおり依頼文書が提出され、理事会で了承した。

(5) 建築士事務所全国大会の開催ブロックの順番について

白井総務・財務委員長より、資料5によって、次の趣旨の説明がなされた。

平成29年11月の理事会で、東京開催は平成30年度を最後とし、平成31年度以降は毎年地方開催とすることとしたが、平成33年度(2021年度)以降の開催ブロックの順番が決定していなかった。ブロック・単位会としては、どのタイミングで全国大会実施(主管会)の打診を受けるのかが分からず、特に主管会を引き受けたことのない単位会にとっては、いつ順番が回ってくるかということは重大事である等の意見があった。そこで、総務・財務委員会で協議し、過去の開催順及び決定済みの順番を基に平成42年度(2030年度)までの開催予定を資料のとおり常任理事会へ提案し、理事会にて決定された。ただし、天災等でやむなく開催を辞退したブロックが生じた場合は、改めて順番を検討することとしたい。

(6) 建築士事務所企業年金基金の加入促進について

建築士事務所企業年金基金 横山常務理事より、資料6によって、次の趣旨の説明がなされた。

昨年12月1日より新制度として発足した「建築士事務所企業年金基金」は、65歳未満であれば事業主・役員も加入でき、掛金は全額損金算入可能と税制面でも魅力的な制度である。単位会等で会員に周知してもらいたい。要請があれば説明に向かうので、日事連事務局に連絡してほしい。

(7) 平成31年度日事連建築賞の募集等について

南広報・渉外委員長より、資料7によって、次の趣旨の報告がなされた。

平成31年度の日事連建築賞の募集要項については、例年の変更必須項目である対象建築作品の竣工年月日等及び事務的な変更を行った。また、第2次審査候補作品応募数(日事連への応募数)の変更を行いたい。応募数は、第1次審査の段階で各部門の一方に規定数を超えた応募があり、もう一方の部門に応募がない場合、超えた応募がある部門に追加応募できるようにするものである。委員については、国交省からの1名が変更となった。

(8) その他

佐々木宏幸会長より、追加資料によって、次の趣旨の提案がなされた。

現在の全国会長会議の進行は、各報告事項の説明後、質疑応答が行われているが、時間の制約もあり意見交換等が充分に出来ていない状態である。今後は、1単位会ごとの意見等をブロック内で事前に集約し、意見等を出してほしい。また、現在のスクール形式の座席配置についても見直しを行い、各ブロックが一体となるスタイルを考えている。単位会より意見を出してもらい、来年6月の全国会長会議に間に合うよう検討していきたい。

<配付資料>

資料1-1：平成30年度上半期事業報告書

資料1-2：平成30年度上半期決算報告書

資料2：建築士資格制度の改善について

資料3：業務報酬基準等の改正について

資料4：平成33年度（2021年度）第45回建築士事務所全国大会の主管会について

資料5：建築士事務所全国大会の開催ブロックの順番について

資料6：建築士事務所企業年金基金の加入促進について

資料7：平成31年度日事連建築賞の募集等について

■会誌編集専門委員会議事概要

日 時 平成31年1月15日（火）15：00～17：10

場 所 日事連会議室

出席者 委員長 小泉厚

副委員長 丸川眞太郎

委 員 宇塚幸生、鈴鹿美穂、渋谷美樹、三谷滋伸

広報・渉外委員長 南孝雄

オブザーバー（株）ジェイクリエイト - 城市奈那

事務局 居谷専務理事、前田、鈴木、三浦、安藤

欠席者 委 員 須田正美

＜配布資料＞

資料1：2月号台割・表紙

資料2：3月号～5月号台割

資料3：新特集・新連載提案等（宇塚委員、ジェイクリエイト）

資料4：会誌への意見募集について

参 考：平成30・31年度 年間台割表

議 事

1. 前回委員会以降発行の会誌（12・1月号）の掲載内容についての意見交換

＜12月号＞

○特集について

- ・青年話創会の記事の次に会長等のあいさつを挟み、青年話創会部会長のあいさつとなっていたため、ページ割りを工夫する必要があるのではないか。
- ・青木茂氏の講演内容が興味深かった。
- ・大会概要・プログラムが読みにくかった。文字サイズに変化をつけたり、段落下げをするなど、工夫が必要ではないか。
- ・青年話創会は単なる報告で終わらせてしまうのではなく、

青年部会の必要性や若い人が建築から離れている問題について、今後より掘り下げた特集をして欲しい。また、今回で3回目の開催となるため、実績を記事にして欲しい。

○その他連載記事等について

- ・「日事連建築賞受賞事務所訪問」は、掲載写真と文章が一致しておらず、作品の良さが伝わりにくかった。作品と直接関係の無い文章を掲載するより、作品に対する説明を増やしたほうがわかりやすいのではないか。
- ・「景観・まちづくり地域探訪」は、内容に興味はあるが文章が読みにくかった。第3弾として、建物が建ち始めている経過を記事にして欲しい。
- ・「建築士の休日」は、これまでの連載記事と切り口が異なっていたが、勉強になった。

＜1月号＞

○特集について

【特集1】酒文化と建築

- ・「酒蔵の建築史」は内容が難しかったので、もう少し読みやすい記事の方が良かったのではないか。／写真が多くボリュームもあったため、読みごたえがあった。
- ・多くの会員寄稿が集まり、内容も興味深かった。

【特集2】新年の初夢

- ・個々の抱負ではなく、1つのテーマに沿って寄稿してもらったほうが良いのではないか。
- ・毎年同じような誌面構成となっており定例化されているため、工夫しても良いのではないか。

【その他】

- ・会員寄稿は、会員が会誌に興味を持つきっかけになるので、今後も継続していけると良いのではないか。
- ・半ページ程度の会員寄稿であれば、執筆しやすいのではないか。

○その他連載記事等について

- ・若手の専任者ではなく、より若い事務所の所員にも参加してもらえるような特集等の企画ができると良いので

はないか。

2. 2月号の編集作業状況報告

ジェイクリエイトおよび事務局から、間もなく発行される2月号の編集内容について以下のとおり説明がなされ、確認した。

(資料1)

- ・特集は「これからの保育施設」

保育園を数多く手がけている茨城会会員のインタビュー記事を掲載するほか、多様化してきている保育施設の現状や地域との繋がりについてインタビュー記事を掲載する。

- ・表紙は「野草舎森の家」※平成29年度日事連建築賞奨励賞受賞作品

- ・連載として、「日事連建築賞受賞事務所訪問」では、優秀賞を受賞した横山建築研究室(南相木村移住定住促進施設『たまる家』)、埼玉会会員による「建築士の休日」「住宅・省エネレポート」、「青年話創会レポート」(北海道東北ブロック)、東京会会員による「美術館・博物館巡り」(MIZKAN MUSEUM)等を掲載するほか、「日事連発信」にて『建築士法の一部を改正する法律』(平成30年12月8日成立)について取り上げる。

3. 3月号～5月号の特集企画の確認、検討

ジェイクリエイトおよび事務局から説明がなされ、確認した。

(資料2)

○3月号

- ・特集は「街の小さなミュージアム」

専門家による美術館の歴史や役割、小規模なミュージアムの経営状況等に関する執筆記事を掲載するほか、委員等の寄稿により小さなミュージアムを紹介する。

また、2020年末に閉館する原美術館をコラム形式で紹介するとともに、これまでの連載で取り上げた美術館・博物館をMAP形式で紹介する。

- ・連載として、「青年話創会レポート」(九州・沖縄ブロック)、富山会会員による「美術館・博物館巡り」(高岡御車山会館/平成29年度日事連建築賞奨励賞受賞作品)を掲載するほか、「建築まちづくりNewS」にて改正業

務報酬基準、「日事連発信」にて昨年12月に行われた政経フォーラムの講演概要(『地震と所有者、設計者、施工者、売主の責任』/日事連・富田理事)等を掲載予定。

<意見等>

- ・連載「美術館・博物館巡り」と特集を連動させてはどうか。

→ページ割りを調整し「美術館・博物館巡り」紹介

MAPの前に連載記事(高岡御車山会館)を掲載することとした。

○4月号

- ・特集は「建築でみる平成—デザイン・計画編」

平成以降の公共建築の設計手法やまちづくりの変化等についてインタビュー記事を掲載するほか、これまでの特集で取り上げた建物や、まちづくりに関する建物を年表形式で掲載予定。また、平成に建てられた思い出の建築や忘れがたい出来事などを会員寄稿により紹介する。

- ・連載として、「日事連建築賞受賞事務所訪問」、「住宅・省エネレポート」(旭化成建材)、「青年話創会レポート」(愛媛会)、「美術館・博物館巡り」(南方熊楠記念館/東京会)等を掲載予定。

<意見等>

①特集について

- ・設計手法の1つであるワークショップに焦点を当てるのではなく、より広い視点から平成を振り返ったほうが良いのではないかと。

- ・都市計画とまちづくりでそれぞれの専門家に依頼してはどうか。

- ・2018年は新都市計画法が制定されて50年、2019年は旧都市計画法が制定されて100年という節目を迎えるため、他団体で記念事業等が企画されている。

②会員投稿について

- ・個々の思い出ではなく、社会問題やニュースになった出来事に関連した建物について寄稿を依頼し

たほうが良いのではないかと。

- ・平成に建てられた建物だけではなく、解体された建物でも可とする。
- ・紹介する建物が重複する可能性はあるが、レイアウト等で工夫して掲載する。
- ・タイトルは「わたしにとっての平成の建築」が良いのではないかと。
- ・会員自身が撮影した写真を原稿と一緒に送付してもらい、文章だけにしないよう配慮する。

○5月号

- ・特集は「建築でみる平成―構造・技術編」
平成の建築構法史や、ITを活用した構造設計の進化について専門家による執筆記事のほか、構造や構法の変化を年表形式で掲載予定。また、思い出の建築や忘れがたい出来事などを会員寄稿により紹介する。
- ・連載として「日事連建築賞受賞事務所訪問」、「住宅・省エネレポート」、「美術館・博物館巡り」（すみだ北斎美術館／千葉会）等のほか、「青年話創会レポート」にて、2月に大阪で行う「大坂の陣」の報告を掲載予定。

<意見等>

- ・年表は、昭和の流れを簡単に掲載した後、平成を中心に紹介したほうがわかりやすいのではないかと。

協議の結果、特集はインタビュー（執筆）候補者の進捗状況により、4月号と5月号を入れ替えても良いこととした。

会員投稿は4月号と5月号の2号に渡るが、投稿募集は1度に行い、集まった原稿を事務局で4月号と5月号に振り分けて掲載する。

4. 特集・連載記事について

宇塚委員、ジェイクリエイトおよび事務局から説明がなされ、協議した。（資料3）

○特集について

①文化財と建築（宇塚委員）

行政や研究者等による文化財の概論を掲載する。また、既存建築物の改修・活用・再生活動の事例を会員投稿により

紹介するとともに、これらを学ぶことのできる資格講座も取り上げる。

<意見等>

- ・国立西洋美術館を取り上げて欲しい。

②万博の歴史（ジェイクリエイト）

2025年の大阪万博開催に向けて、専門家の解説により万博の歴史や1970年の大阪万博を振り返る。また、日本で開催された万博について、MAPや写真等で紹介するほか、万博のデザイン政策について取り上げる。

○連載について（災害対策特別委員会）

災害支援に当たった経験から、苦心した点や工夫した点について連載記事で紹介したい。

協議の結果、特集を以下のとおり仮決定することとした。

6月号 万博の歴史

7月号 文化財と建築

連載は具体的な企画案を提出してもらい、掲載する方向で検討することとした。

5. 会誌への意見募集について

事務局から説明がなされ、協議した。（資料4）

前回委員会にて、目次の辺りに会誌に対する意見募集の案内を掲載することとした。回答がどの程度集まるかわからないため、当面の間は無料のアンケートツールで様子をみたい。

<意見等>

- ・会誌を事務局内で所員に回覧しているかどうか知りたい。
→アンケート項目に追加することとした
- ・回答者の基本情報（单位名称・氏名・性別・年代）は、項目をまとめたほうが良いのではないかと。

協議の結果、3月号から案内を掲載（URL、QRコード）することとした。

6. その他

○次回日程 3月13日（水）10:00～12:00

We b会議

■第1回全国大会運営特別委員会議事概要

日 時 平成31年1月29日（火）13:30～16:30

場 所 日事連会議室

出席者 委員長 新沼義雄

副委員長 渡邊 武

委 員 田中幸吉、鈴木勇人、尾添信行、佐野吉彦、
木下賀之

事務局 居谷専務理事、前田、伊東、松谷、永井

オブザーバー 但野廣（福島会）、平野恵子（福島会）、
前田俊紀（和歌山会）

協議事項

（1）福島大会の実施に向けたスケジュール等について

事務局より、資料1によって当委員会における協議、日事連の機関決定及び事務局の作業スケジュール等について確認を行い、2月の総務・財務委員会、3月の常任理事会及び理事会へ大会実施要領及び収支予算を提案すること並びに会誌日事連5月号（4月下旬発行）に大会の実施要領等を掲載すること等説明がなされた。

佐野委員より出来るだけ早めにプレスリリースを出した方がよい。協賛金集めにも有効であり、協力依頼も早い段階で行えるのではないか、また会誌を利用して段階的に公表・案内していくべきとの意見が出された。

協議の結果、全国大会に関する情報の会誌への掲載時期やマスコミ等への周知等については、事務局で調整し、周知に関する作業事項を大会実施に向けたスケジュールへ追記することとした。

（2）第43回建築士事務所全国大会（福島大会）の実施要領及び収支予算について

田中委員より、資料2によって福島会で検討した実施要領について次のとおり説明がなされた。

大会テーマを『七転び・八起き』～福島からのメッセージ～、大会スローガンを『震災から再生、そして飛躍へ!』として、10月4日とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）及びクーラクーリアンテ（旧・サンパレス

福島）を会場として開催する。

大会式典の前日には青年話創会を行い、従来の大会式典、日事連建築賞作品展示及びパーティの他、震災復興に関する座談会を行う。大会参加費は@4,000円、パーティ参加費は@12,000円、収支予算額は4,000万円である。

また、青年話創会の参加費を徴収するかについても協議検討してもらいたい。

以下のような質疑等がなされた。

①大会スローガン及び大会宣言について

- ・大会スローガンの説明文を入れる必要はあるか。
→大会スローガンの説明文は実施要領から削除する。
- ・大会宣言に「この8年間復興に向けて歩んできました」とあるが、主語があった方がよいのではないか。
→福島会で再検討したい。

②座談会の会場等について

- ・和歌山大会では、講演中の参加者の私語や前方の来賓席等の空席が目立つと講師に対して失礼になるのではないかと意見があり、大会式典とは別会場で開催した。座談会中に参加者等の入退場を自由にした場合、対策が必要ではないか。
→座談会は出来るだけ多くの方に聴いてもらいたいため、大会式典と同じ大ホールを使用する予定である。小ホールについては、昼食会場やCPD受付等有効に活用出来るようにしたい。今後、座談会中の自由な入退場について対策等を検討したい。
- ・登壇する来賓の控室は、大ホールに近い控室にした方がよい。
→会場見学の際に動線を確認し、調整したい。

③大会の日程について

- ・式典の時間は出来るだけ短縮する工夫をした方がよい。
- 日事連建築賞の審査講評の持ち時間は7分間だが、実際は超過しているので、講評の読み上げをやめることや単位会紹介をコンパクトにする等、今後様々

な案を出し検討していきたい。

- ・記念パーティのアトラクションを行う時間は適当であるか。

ー福島大会では「会津彼岸獅子」を披露する予定である。通常は歓談中に行うが、歓談が中心になってしまいう傾向があるため、オープニングで披露したい。

④収支予算について

- ・青年話創会にかかわる経費については、青年WGから提案してもらったかどうか。
ー地方開催では青年話創会にかかわる経費は日事連が全額負担し全国大会の収支予算には計上していなかった。費用負担等については、青年WGで協議検討後、日事連へ提案してもらうと良いのではないか。
- ・記念品は用意しないのか。
ー経費削減にもなるため、記念品は用意しないこととした。
- ・オープニング映像は経費がかかるので必要ないのではないか。
ーPRビデオを県から借用しているため、経費は抑えている。
ー大会PRについては、大会プログラムに盛り込んだら良いのではないか。

⑤その他

- ・大会当日の午前中に、青年話創会参加者向けの見学会を行うことも考えられる。
- ・エキスカーションは有料か。
ー有料である。一部の視察については、抽選になる可能性もある。
ーエキスカーションの参加費等詳細については、今後判りやすく記載したい。
- ・大会参加者が昼食をとる施設等はあるのか。
ー飲食施設が会場内や近隣にないため、大会参加申込みとあわせて弁当の注文について案内をする予定である。また、物産展コーナーの近くにキッチンカー

スペースを設け、食事が出来るように準備する予定である。

- ・シャトルバスの運行はどのようになっているか。

ー福島駅から大会式典会場の往復と大会式典会場からパーティ会場までの片道を運行する予定である。詳細については、実施要領に記載したい。

- ・福島大会では、市内に宿泊施設が少ないため、近隣の温泉地も案内する予定としている。参加者のホテル確保については早い段階で検討したい。
- ・全国大会運営特別委員として、大会当日は一スタッフとなり協力したい。

協議の結果、資料2の実施要領案（収支予算書を含む）については、今回の議論や意見等を踏まえ、福島会で実施要領（スローガン/宣言）及び収支予算を再検討し、事務局へ再提出することとした。

また、青年話創会の経費を日事連が全額負担することについては、2月1日開催予定の青年WGにおいて協議した上で日事連に提案してもらうこととした。

次回の第2回委員会は、7月に福島の会場確認と併せて開催することとし、後日会場確認が可能な候補日を福島会が確認し、日程調整を行うこととした。

(配付資料)

全国大会運営特別委員会（福島大会）委員名簿

資料1 建築士事務所全国大会（福島大会）に向けたスケジュール等について

資料2 第43回建築士事務所全国大会（福島大会）実施要領及び収支予算

参考1 第41回建築士事務所全国大会（和歌山大会）実施結果

参考2 第41回建築士事務所全国大会（和歌山大会）大会式典タイムスケジュール

参考3 第42回建築士事務所全国大会（東京開催）記録とコメント

■主な行事予定

※行事日程は中止・変更となる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

平成31年

- 2月19日 会員増強検討WG (We b)
- 20日 景観・まちづくり特別委員会 (We b)
- 22日 基本問題検討特別委員会
法制度対応特別委員会
- 26日 広報・渉外委員会 (We b)
- 27日 適合証明業務登録制度運営委員会
BIMと情報環境WG
- 28日 総務・財務委員会 (We b)
- 3月 4日 建賠保険等調査専門委員会
- 5日 設計図書の電磁的記録による作成と保存
のガイドライン普及促進WG
- 6日 建築士事務所の業務環境改善WG
(We b)
建築の低炭素化・省エネルギー化対応
WG
- 7日 正副会長会
常任理事会
- 13日 会誌編集専門委員会 (We b会議)
青年WG

平成31年1月末 会員・構成員異動報告等

1. 期 間 平成31年1月1日～1月31日
 2. 会 員 在 籍 正会員 46団体 構成員 14,782事務所
 賛助会員 6社

単位会	構成員		建築士事務所登録		賠償責任保険		
	増 減	在籍数(A)	登録数(B)	加入率(A/B)	増 減	加入数(C)	加入率(C/A)
北海道	- 2	1,021	4,406	23.2 %		267	26.2 %
青 森		178	953	18.7 %		41	23.0 %
岩 手		266	943	28.2 %		68	25.6 %
宮 城		346	2,016	17.2 %		74	21.4 %
秋 田		145	971	14.9 %		46	31.7 %
山 形		185	1,163	15.9 %		57	30.8 %
福 島	- 2	240	1,619	14.8 %		67	27.9 %
茨 城		483	2,010	24.0 %	+ 1	161	33.3 %
栃 木		176	1,386	12.7 %		83	47.2 %
群 馬		192	1,717	11.2 %		93	48.4 %
埼 玉	- 2	494	4,884	10.1 %		128	25.9 %
千 葉		386	3,456	11.2 %		113	29.3 %
東 京	- 4	1,582	15,207	10.4 %		560	35.4 %
神奈川	- 1	770	6,135	12.6 %	+ 2	206	26.8 %
新 潟		315	2,308	13.6 %	+ 1	136	43.2 %
長 野		418	2,150	19.4 %		116	27.8 %
山 梨		110	844	13.0 %		9	8.2 %
富 山	- 1	307	1,234	24.9 %		60	19.5 %
石 川		305	1,301	23.4 %	+ 1	57	18.7 %
福 井		222	970	22.9 %		54	24.3 %
静 岡		417	3,156	13.2 %	- 1	128	30.7 %
愛 知	- 1	562	5,118	11.0 %		138	24.6 %
三 重		184	1,181	15.6 %		62	33.7 %
滋 賀	+ 1	184	1,157	15.9 %		35	19.0 %
京 都		354	2,201	16.1 %	- 1	102	28.8 %
大 阪	+ 2	812	6,478	12.5 %	+ 1	212	26.1 %
兵 庫	- 1	401	3,573	11.2 %		105	26.2 %
奈 良	+ 1	107	932	11.5 %		22	20.6 %
和歌山		127	778	16.3 %		25	19.7 %
鳥 取	+ 1	106	484	21.9 %		46	43.4 %
島 根		118	601	19.6 %		61	51.7 %
岡 山		387	1,490	26.0 %		67	17.3 %
広 島		346	2,341	14.8 %		133	38.4 %
山 口		112	1,062	10.5 %		37	33.0 %
徳 島		108	851	12.7 %		14	13.0 %
香 川		95	1,094	8.7 %		18	18.9 %
愛 媛	+ 1	168	1,188	14.1 %		43	25.6 %
高 知		140	622	22.5 %		28	20.0 %
福 岡	+ 1	466	3,662	12.7 %		153	32.8 %
佐 賀		184	581	31.7 %		39	21.2 %
長 崎		252	859	29.3 %		43	17.1 %
熊 本		227	1,401	16.2 %		101	44.5 %
大 分		159	903	17.6 %		39	24.5 %
宮 崎		121	1,003	12.1 %		51	42.1 %
鹿児島	+ 4	312	1,243	25.1 %		83	26.6 %
沖 縄		192	1,284	15.0 %		63	32.8 %
計	- 3	14,782	100,916	14.6 %	+ 4	4,244	28.7 %

※建築士事務所登録数は平成30年4月1日時点の数字である。